

# 第3回

# 官製「多文化共生」を問う

「多文化共生」——最近盛んに耳にするこの言葉。

「どこか違う」「なんだかすっきりしない」と感じたことはないでしょうか？

自治体や国の推進する「多文化共生」政策は、はたして本当に「多文化共生」を実現するのか。

「多文化共生」を謳いながら、日本において最も重要な「多文化共生」の課題であるはずの、

**日本の植民地支配とその結果として現在も続く差別や抑圧の問題**に触れることがほとんどないのはなぜでしょうか？

文化の多様性を認め奨励しさえすれば、多数派日本人と民族的マイノリティ、

あるいは外国人との間に厳然と存在する**経済的・社会的格差や差別**をなくすることができるのでしょうか？

「共生」という耳あたりのよいスローガンには落とし穴も多そうです。そこに潜む限界と課題を検証します。

【関連書籍】『制裁論を超えて』 [http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s\\_db/kensakutan.cgi?j1=978-4-7948-0746-5](http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s_db/kensakutan.cgi?j1=978-4-7948-0746-5)

■日時 2008年5月18日(日) 午後2時～5時(予約不要・参加費500円)

■場所 大阪経済法科大学 東京麻布台セミナーハウス

(アクセス右記参照/地図 <http://kenshu.e-joho.com/azabudai/map.html>)

■発題者

● 金迅野 (川崎市ふれあい館)

……………「多文化共生」と「ザイニチ」

● 樋口直人 (移住労働者と連帯する全国ネットワーク/徳島大学教員)

……………「共生」で排除と格差はなくなるか

——移住者の現状から——

\*主催 〈NGOと社会〉の会(お問い合わせは下記事務局まで)



### Access

大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウス

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-5

TEL 03-3582-2922

■ 地下鉄日比谷線神谷町下車 (E1出口) 徒歩3分

■ 都営大江戸線赤羽橋駅下車 徒歩8分

### 〈NGOと社会〉の会とは

2007年2月、『国家・社会変革・NGO』

([http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s\\_db/kensakutan.cgi?j1=4-7948-0719-8](http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s_db/kensakutan.cgi?j1=4-7948-0719-8))

の出版を機に、その書き手たちによる有志グループ

〈NGOと社会〉の会が発足しました。

当会は、NGOの問題を社会の問題として、

また社会の問題をNGOの問題として相互に捉え合うことで、

これまで別個のものとして語られがちだった両者の関係や、

両者を横断する危機の現実に改めて目を向け、

両者に立ちはだかる共通課題を

正面から見据えてゆこうと結成されたものです。

私たちは、NGOの自己変革の可能性を信じます。

●代表 藤岡美恵子

●事務局連絡先 (株)新評論編集部内 〈NGOと社会〉の会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-16-28 (株)新評論

TEL 03-3202-7391 / FAX 03-3202-5832

## 制裁論を超えて

朝鮮半島と日本の〈平和〉を紡ぐ

中野憲志 = 編

私たちが自身の植民地主義を見つめ直し、「市民の連帯」の思想を紡ぎ直す！  
藤岡美恵子・LEE Heon・金朋央・宋勝  
哉・寺西澄子・越田清和・中野憲志 著  
■ 四六上製 一九〇頁 定価 一七三〇円  
■ 新評論刊

